

2025年7月号

カトリック二俣川教会
教会だより

No.383

(2025年6月29日発行)



二十六聖人

日本二十六聖人殉教者



聖ヨアキム樹原

21、医学を学んでいたが、ある宣教師の説教に
ひかれ受洗。貧しい病人たちのために働く。
40歳。大阪生まれ。

日本二十六聖人殉教者



聖フランシスコ

22、医師。豊後の大名の侍医を務める。
京都で洗礼を受け、聖ヨゼフ病院で活躍。
46歳。京都生まれ。

巻頭言：イエスのみこころと年間－キリストの神秘を追憶する－

『二十六聖人』が発行される日にはもう終わりに近いですが、6月はみこころの月として教会はお祝いしました。今年は6月27日がイエスのみこころの日だったので、そのことについてまずお話をしたいと思います。

イエスのみ心は全人類に対する神の愛の象徴としてイエスの心臓を表し、その信心はイエスのみ心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしであるみ心をたたえるものとして中世に始まりました。

特に聖マルガリタ・マリア・アラコック（1647－90）がみ心の信心についての啓示を受けて17世紀にフランスで広まりました。1675年6月16日、この聖女はご聖体を前にして、イエスの愛にこたえたいという思いに駆られました。そのときイエスは、愛情に燃えているみ心を示して、人々の間に存在する冷淡な心を嘆かれ、イエス自身の愛に倣ってその心を尊ぶことを勧められました。

またこのようなイエスの出現が数回にも及び、ご聖体の祝日(キリストの聖体)後の金曜日をみ心を礼拝する特別な祝日として定めるようにとのお告げにより、み心の信心の内容と形式が明確にされるようになりました。

そして1856年に教皇ピオ9世によってイエスのみ心の祭日(ご聖体の祝日後の金曜日)に全世界で祝うことが定められました。ご聖体とみ心の主日がおおよそ6月に祝われるというこのような歴史からして、次第に6月が「イエスのみ心の月」と自然に浸透し、制定されてきたことは十分に考えられます。

「イエスのみ心」とは、簡単な言葉で言えば、「私たちはイエスにならって愛を持って人々を大切に出来るように願う月です。イエスは2000年前、弱い人や貧しい人、子ども

や女性たちを特に大切にされていました。今の時代でも私たちはそういう人々を大切にしていくことを心に留めていかなければなりません。そのようなイエスさまの愛の心を持つ」ことです。そしてその心が軽んじられていることを恥じ、償いの心を持って聖体を受けるのが「イエスのみ心」の精神でもあります。

そうした中であって私たちが日々、イエスの愛の心に少しでも近づくことが出来るように、また私たち一人ひとりの罪を贖ってくださったキリストの愛を感じながら、私たちもキリストと共にいつも歩む糧をいただくことが出来れば幸いです。

また、教会の典礼暦は復活節という大きな季節を過ごしてきましたが、聖霊降臨を持って週日のミサは年間になりました。7月から年間となりますが、皆さんは教会の中での「年間」と聞くとどのように感じ、過ごしているのでしょうか？

司祭の祭服も緑を着ることが多いですが、これは新芽の色で、希望、堅実さ、忍耐を表すことを意味します。

しかし、だいたいの方は年間というものを「特徴がない」と感じていて、どのようにその間を過ごせば良いのか分からない方が多いかと思います。

「年間」についてのことで、「典礼暦年と典礼暦に関する一般原則」43項に次のようなことが記されています。43項では「固有な特質を備えた諸説を除く場合、キリストの神秘の種々の面を取り立てて祝わない週間が、1年の周期の中で、33ないし34週残ることとなる。こういう週間、また、とりわけ主日

は、むしろキリストの神秘全体を追憶するものである・・・。」

「年間」という季節は他の典礼暦（復活節や待降節など）と比べて格下げみたいな印象を受けますが、そうではなく私たちの日々の信仰生活をより深いものとしていくために福音書を通して「キリストの神秘を追憶する」ものとして過ごしていきます。

その中で「年間」を特徴づけているもう一つの要素は、主日のミサの3年周期の聖書朗読配分にあります。1969年に発表され1981年に改訂されたミサの新しい聖書朗読配分では、主日の福音朗読をA年・B年・C年の3年周期とし、A年ではマタイ福音書、B年にはマルコ福音書、C年にはルカ福音書を継続して、「キリストの秘義（公生活の出来事）を福音書の記載順に」読むという特徴があります。

その中でミサの福音朗読をよく理解するために大切にされていることは、第1朗読との

関係です。第1朗読はその日の福音朗読に応じて旧約聖書から選ばれていて、福音書を理解するためにも第1朗読の聖書箇所はとても大事になってきます。

また、第2朗読では使徒書が読まれます。直接福音書と関連付けるのは難しいとされていますが、私たちは初期のキリスト者の生き方や信仰のあかしを知ることにも出来るので、第2朗読も大切な朗読と言えるでしょう。

このようなことは1年の典礼暦を通して言われることではありますが、「年間」という典礼暦を過ごす中で、特に意識して聖書朗読に耳を傾けて行けたらと思います。今年はルカ福音書が主に読まれていきますが、そこに示されているキリストの神秘を追憶していき、私たちの日々の信仰生活が更に実り豊かなものとなるようにしていくことが出来ればと願っています。

マキシミリアノ・マリア・コルベ 内藤 聡

5/28☆内藤神父様、 40 歳のお誕生日おめでとうございます！

お誕生日に一番近い主日の
5/25 に花束とバースデーソングで
お祝いしました！



お誕生日当日は週日ミサに集った有志の皆さんで、お祝いしました♪



2025 年 6 月 (6 月 1 日 開催)

【検討・報告事項】

1. 信徒意見検討

信徒から頂いた信徒意見を検討しました。

- ①「6/22 初聖体でみんなが参加できるパーティーを行って欲しい。マリア会が軽食を準備する。」教会学校がパーティーを企画し、マリア会に軽食の準備をお願いすることにしました。

- ②「教会委員会の議事録は公開しないのか。」
討議内容は個人情報を含むことが多く、また公開が委員の率直な意見交換の妨げになる可能性もあるので議事録自体は公開していません。なお、これらに該当しない内容についての公開制限はありません。

- ③「牧山助祭司祭叙階のときは本人ご希望でカズラを贈った。ナン助祭司祭叙階にも教会として記念品を贈りたい。」
プロジェクトチームが司祭叙階のお祝いを企画しており、その中で検討中です。

2. 設備修繕費

設備の老朽化が目立つようになり、今後6年間で二千万円以上の修繕費が予想されるとの報告がありました。主なものは、空調機更新、聖堂屋根塗装、電話設備更新、蛍光灯LED化です。設備スペック適正化によるコストダウンと毎年の修繕費の平準化を建物管理委員会で検討しています。

3. バザー企画委員会立上げ

企画委員の応募者は二名でした。これに教会委員二名を加えてバザー企画委員会を立上げました。企画案がまとまり次第、バザー実行委員会を立ち上げる予定です。

4. 2050年委員会立上げ

既存の二十六聖人委員会の委員4名および教会学校、インターファミリー選出の委員により委員会を立ち上げました。教会共同体の持続可能性を長期的視野で考え、必要な施策を検討して行く予定です。

【各会報告】

1. 典礼委員会

- ・ペトロ ホアン・ドゥック・ナン助祭、ヨセフ トラン・ヴァン・グエップ助祭の司祭叙階のための祈り 7月6日(日)よりミサの5分前に行います。
- ・ベネディクション 7月はいりません。

2. 教会学校

- ・6/1 初聖体の子どもたちが赦しの秘跡を受けました。
- ・7/26(土)教会学校一日サマースクール(宿泊なし)を行います。お手伝いをお願いすると思いますのでご協力をお願いします。

3. キリスト教講座

- ・7/6,20 にシスター小野恭世の「自分を深くするために」のビデオ上映を予定しています。
- ・聖書のつどい～福音の分かち合い～
7/13 9:00～9:45
- ・入門講座 6/28・7/12 8月は夏休み。

4. 財務委員会

来年1～12月、例年と異なる活動を予定していましたら、概算予算を8月教会委員会までに提出してください。

5. 福祉委員会

- ・通常聖年のバーチャル巡礼、信徒意見にあったバス巡礼については常任委員会で今後の進め方を検討することになりました。
- ・年末福祉献金の各団体に来てもらい活動報告して貰うことを企画中です。

6. 建物管理委員会

- ・6/3～6 に三階司祭館の空調更新第一期工事を予定しています。

7. 共同墓地委員会

春の墓参：5月10日(土)10:00
司式；磯子教会谷脇神父様

8. ヨゼフ会

- ・5/11 内藤神父様歓迎会にてコーヒー提供
- ・5/18 定例会、5/25 コーヒー光、
6/15,29 コーヒー光予定
- ・6/21,22 練成会予定

9. マリア会

- ・マリア会
5/1「マリア会の日」に向けた映画試写・打合せ。5/8 運営委員会、5/18 マリア会

例会、5/29「マリア会の日」映画鑑賞、交流ランチ会、6/12 運営委員会予定

- ・パーティー係
5/8 内藤神父様歓迎会に向けた打合せ、
5/10 歓迎会準備、5/11 内藤神父様歓迎会、5/23「第三地区司祭の集い」準備
- ・アンナ会
5/12,26 活動、6/9,23 活動予定
- ・ステラマリス帽子を編む会
5/16,22 活動、6/20,26 活動予定
- ・ボリビア支援グループ
5/4「ボリビアの風」配布、5/23 会議、
5/30 配布物編集印刷作業、6/15 会議、
6/18 ボリビアデイ準備 6/29 ボリビアデイ

10. 青年会

- ・5/18 定例会実施。新青年も交えて青年会の方針を確認し、6/8「わかちあいたいかい」の詳細な流れを決めました。聖パウロ修道会による聖年の動画の視聴、「希望の巡礼者」の歌唱など、聖年に関わる内容、説明を取り入れる予定です。
- ・第3地区青少年デスク主催で、小6から高校生までを対象に、夏企画を予定しています。

11. インターファミリー

- ・「今週のお知らせ」英訳者が交代しました。
- ・9月「難民移住移動者の日」にインターファミリーデーを行います。

12. 一粒会

- ・一粒会月定献金領収対応を実施します。
6/1より順次、教会維持費・建設積立金納付書に統合してまいります。
- ・6/29に第三地区一粒会の集いを行います。

以上

聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年
特集
Vol. 6

11 希望のしるしは、
自宅療養か入院中か
を問わず、病者にも
差し出されなければ
なりません。彼らの苦

しみは、見舞いに訪れる人たちの寄り添いや
思いやりによって和らげられるでしょう。慈
善のわざは、心に感謝の念を呼び覚ます希望
のわざでもあります。その感謝の思いが、す
べての医療従事者に届きますように。彼ら
は、大抵は困難な条件のもと、病者やもっと
も脆弱な人たちへの行き届いたケアによっ
て、その使命を果たしています。

とくに苦しい生活環境に置かれていて、自
身の無力さを味わっている人への、包括的な
ケアを欠いてはなりません。病気あるいは障
害を抱え、介助がなければ自由に動けない人
たちに対しては、とりわけそれが求められま
す。彼らへのケアは、人間の尊厳への賛歌で
あり、社会全体の調和ある行動を求める希望
の歌です。

12 その存在自体が希望である若者も、希
望のしるしを必要としています。残念ながら
、若者の夢がつかえることも多々ありま
す。彼らを失望させるわけにはいきません。
未来は彼らの情熱にかかっているのです。た
とえば、腕まくりして、災害や社会の危機的
状況に自発的に取り組んでいるときなど、活
力あふれる彼らを見るのはうれしいことで
す。しかし希望のない若者を見るのは悲しい

ものです。とはいえ、先行きが不透明で夢を
抱けないならば、学業によって道が開かれな
いならば、仕事にあぶれ十分に安定した職を
得られず、望みを捨ててしまうならば、憂鬱
と倦怠の中で今を過ごすことになるのも致し
方ないことです。薬物による幻覚、犯罪すれ
すれのこと、束の間の享楽、こうした行為
が、ほかの人に対して以上に彼ら自身に混乱
を来し、生きることのすばらしさと意味とを
見えなくして、暗黒の深淵へと突き落とし、
自己破壊的な行動に走らせるのです。ですか
ら、聖年は教会の中で、若者を奮起させる機
会となるべきです。新たな熱意で、青少年
を、学生を、恋人たちを、若い世代を心にか
けることです。若者に寄り添うこと、それは
教会と世界の喜びであり希望なのです。

13 自分自身と家族のために、よりよい生
活を求めて故郷を去る移住者にとっての希望
のしるしも欠いてはなりません。偏見や排斥
によって、彼らの期待がくじかれることがあ
りませんように。一人ひとりをその尊厳ゆえ
に喜んで迎えることには、だれもが望ましい
未来を築く権利を奪われないようにする、責
任が伴います。国際的な緊張状態によって、
戦争、暴力、差別を避けるには逃げるしか
ない多くの亡命者、強制移住者、難民には、安
全、就労、教育の機会を保障すべきです。そ
れらは、新しい社会環境に溶け込むために必
要な手立てなのです。

キリスト者の共同体にはつねに、もっとも

弱い立場の人々の権利を守る用意がなければなりません。よりよい生活への希望をだれ一人奪われることのないよう、広い心で歓待の扉を開け放ってください。最後の審判についての重要なたとえの中で語られた主のみことばが、わたしたちの心に響き渡りますように。「お前たちは、わたしが旅をしていたときに宿を貸してくれた。……わたしの兄弟であるこのもっとも小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ 25・35、40)。

14 高齢者は、孤独を感じたり見捨てられたと思ったりすることが多く、希望のしるしを受けるにふさわしいかたがたです。彼らの存在という宝、彼らの人生経験、彼らがもっている知恵、差し出すことのできる貢献、それらを生かすことは、世代間の連携のための協働に招かれている、キリスト者の共同体にとっても市民社会にとっても責務です。

わたしは、若い世代に信仰と人生の知恵を伝達する者の代表である祖父母の皆さんのことを思っています。子からの感謝と孫からの愛によって、彼らが支えを得ますように。子や孫は、彼らに自分のルーツを見だし、理解と励ましを得るのです。

15 わたしは、最低限の生活必需品にもしばしば事欠く、数十億を超える貧しい人々に

とっての希望をせつに祈ります。次々と押し寄せる貧困化の波を前にすれば、それに慣れてしまったり、あきらめたりしかねません。しかし、世界の特定の地域だけでなく、今や至るところに見られる痛ましい状況から目をそらすことはできません。わたしたちは毎日、貧しい人や困窮する人と巡り合います。場合によっては、近所の人がそうかもしれませんが、住むところがない人も、その日の十分な食事にありつけない人も珍しくありません。多くの人から除け者にされ、その無関心な態度に苦しんでいます。言語道断な事実があります。莫大な資金があり、その大部分が軍備費に充てられる世界にあって、貧しい人が「多数であり、何十億人にも上るのです。今日、政治や経済に関する国際的な議論の中で、彼らについて言及されはしますが、単なる副次的被害として取り扱われるか、そうでなければ、そうした問題は、ほとんど義務としてよそよそしく付け足されるだけという印象がしばしばです。つまるところ、具体的な取り組みは、しばしば一番下に積み置かれるのです(7)」。

忘れてはいけません。貧しい人々は、ほとんどいつも犠牲者であって、非難されるべき人たちではありません。

(7) 教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シーともに暮らす家を大切に』49。

聖年公式キャラクター「ルーチェと仲間たち」

ルーチェとはイタリア語で「光」という意味で、巡礼の旅に参加する女の子です。鳩は平和のシンボル、天使は旅の安全を守り、犬は神の計画に沿って相手を導く案内役です。ルーチェの両目の中にはホタテ貝の殻の絵が描かれています。ホタテ貝は、いのちの豊かさのイメージを思い出させるシンボルであり、スペインのサンチャゴ・デ・コンポステラの巡礼地を旅する人びとが首から下げる「おまもり」の形です。そして彼女は黄色いレインコートを着て泥で汚れたブーツを履き、旅人の杖と十字架を身に付けており、巡礼の象徴として信仰の旅を表現しています。彼女の仲間として、他にフェ、シン、スカイというキャラクターもいて、共に紹介されています。





皆で祈りましょう

6月22日(日)キリストの聖体の祭日に、8名の子どもたちが初聖体のお恵みをいただきました。ご聖体をいただいた後の祈り(拝領後の祈り)を子どもたちとともに唱えましょう。

はいりよう ご いの 拝領後の祈り

イエスさま、あなたはわたしたちの^{こころ なか}心の中においでくださいました。

^{いま}今、わたしたちは、あなたの^{こえ}声に^{みみ}耳を^{かたむ}傾けます。

イエスさま、わたしたちは、あなたの^{おし}教えを大切にします。

わたしたちが、^{くる}苦しみにあうとき、^{ただ}正しく生きるように、

わたしたちを^{まも}守ってください。

イエスさま、わたしたちの^{かぞく}家族と^{とも}友だち、

^{こま}困っている人たちや、^{ひと}とくに^{びよう}病気で^{くる}苦しんでいる人々に、

^{ちから}力を与えてください。

(「イエズス様とともに」より)

ニ俣川教会 ニュース

- 5月29日(木)にマリア会がヨゼフ会と初めて共催した映画の会が聖堂で行われました。フィリピンのストリートチルドレンを題材にした映画「ブランカとギター弾き」を鑑賞した後、インターファミリーの方々のご協力を得たフィリピン風のワンコインランチを神父様と共に楽しみました。
- 5月31日(土)に聖歌隊のイースターコンサートが行われました。聖歌隊の方にお話を伺いましたが、コロナ以前には、四旬節中に黙想的な集まりとして神父様に来ていただいていた由。今年は久しぶりに、聖堂に80名以上の方々に来ていただいてコンサートを開催でき、大変嬉しかったですとのことでした。
- 今年も教会の誕生日でもある聖霊降臨の祭日(6月8日)に、聖霊降臨カードが配られました。今年はブラジル人青年のJさんがデザインしてくださり、裏面には聖霊の7つの賜物が1つずつ書かれていました。ただの記念品やお守りのようにではなく、それぞれ手にした“聖霊の賜物”を祈り求め、その意味を考え、互いにその賜物を実際の行動を通して分かち合って参りましょう。



第12回 わかちあいたいかいを終えて

毎週(たまにでも)、ごミサに集まる私たち。いつも数百人もの方々と、神さまのもとに集められている。毎週会う人、昔から知っている人、初めての人。おじいちゃん、おばあちゃん。おじさん、おばさん。お兄さん、お姉さん。外国人、子どもたち、友だち。神さま、こんなにたくさんの出会いをありがとう！当たり前のように、こんなにたくさんの出会いをいただいている！共にごミサを捧げているけれど...もっと挨拶したり、わかちあったりしないなんてもったいない！そんな青年たちの想いから「わかちあいたいかい」は始まり、12回目を迎えました。

ひらがなの「わかちあいたいかい」には…皆で「わかちあいたいかい？」という問いかけ。「わかちあいたい会」という希望、「わかちあい大会」という小教区全体の大きなイベントだよ！というメッセージが込められています。

今年もテーマがありますが、私たちの「わかちあいたいかい」へのシンプルな願いは、顔しか知らなかった兄弟姉妹と今日あらためて出会い、来週には名を呼び合って挨拶を交わせたらいいな！というものです。そして共にミサを捧げ、平和の挨拶がもっと親身なものとなり、そして派遣される...そうしてこそ、聖霊の働きに委ねた協力やアイデアが私たちの共同体に生まれてくると思うのです。

ひとりひとり違う私たちが、今日ここに集められたことに感謝します。私たちが、当たり前ではないこの出会いに気づき、心をひとつにし、ごミサを捧げることが出来ますように。

(青年会)

参加者の声

わかちあいたいかいは久しぶりの参加で何を言ったらいいのかしら、と最初は不安でいっぱいでした。希望という言葉も最初は自分と結びつきませんでした。でもシスターたちが「私はナン助祭の笑顔に希望を感じました」「ミサにたくさんの子供たちがいて、皆さんが大きな声で聖歌を歌ってミサを盛り立てていることに希望を感じました」とおっしゃっていたのを聞いて、希望は身近にあることに気付かされました。わかちあいの中で、初めてこの教会に来た時のことも思い出しました。いろいろなことがあって心身共に疲弊していた私に神様が手を差し伸べて呼び寄せて下さったのだと思ったことが、私の信仰の始まりでした。希望はすぐそばにあり、神様はずっと私と共にいらっしやっただのと改めて感じさせてくれたわかちあいたいかいでした。



まず、聖パウロ修道会の「聖年」についての動画を見ました

「わかちあいたいかい」に初めて参加して感じたことは、皆さんお一人おひとりが信仰を生きるために困難があっても、希望を抱いて歩んでおられることを肌で感じました。そしてこのような企画を青年会グループが企画実行しておられることをとても嬉しく思います。若者の教会離れが叫ばれて久しくなっていますが、次世代を担う方々が育っているこの教会をこれからも応援していきたいし、他の教会にもそうであってほしいと強く感じました。ありがとうございました。

わかちあいたいかい 2025「希望は欺かない」に参加して。私のグループは6人で世代も中年から高齢者と幅広い人員構成でした。集いは聖書のローマの信徒への手紙5章1～11を二度ゆっくりと二人の方の朗読から始まり朗読後3分間の黙想をして分かち合いに入りました。少し緊張しつつも温かい空気感の中始まったと感じました。一人一人のありのままの飾らない分かち合いを聞



いている内に私も自然に飾らないで分かち合いをできるよう促されました。一人の分かち合いが聞く人の心に届き一人一人の心が開かれて分かち合いが深まる様子に私の心も深い方へ動いていくのを感じていました。「喜びの分かち合いは喜びを増やしていき、苦しみの分かち合いはその苦しみを減らす」という40年前私に洗礼を授けて下さった神父様のお言葉を思い出しておりました。集いが終る頃には6人の方々と神様への感謝と喜びを共有できたと空気感を感じられました事は、私の心は温かいもので包まれた気持ちになりました。神様への感謝と喜びを持って集いを終えられたとき、そこに希望を感じていました。この頂いた心を持って自分が関わる方々にとって「希望のしるし」になればと願っています。神に感謝。



今回の分かち合いに参加させていただき、ありがとうございました。おひとりおひとり神様の豊かな恵みを分かち合えたのだと思います。感謝!!

Lグループは三人でした。少人数なので皆んな良く話せて充実した時間を過ごせました。「希望」に寄せて書いた付箋の言葉だけでも雰囲気は伝わるでしょう。曰く、「明日はまた日が昇る、今日は落ち込んでモリカバリできる」「失敗は成功、死は凱旋」「自分だけでなく神様を経ることで得られる希望」三人ともに、願望と希望はまったくの別物と考えていたのが印象的でした。たとえば誰でも家族の健康を願うし、悪いことですが嫌いな人の不幸を願うこともあります。そんな願望は次々に生まれて来て、叶ったり叶わなかったりします。もし、それが希望だとしたらいつか必ず欺かれて、平和や和解など得られるはずはないと思いました。私達



「わかちあいたいかい」締めくくりの全体会で、内藤神父様のお話と「聖年の祈り」を唱える様子



が辿り着いた希望は次のようなものでした。私達を大切にしたい神様がいて誰もそれを止められない。私達がどれだけ冷酷で罪深くて、放蕩息子の父親のような神様の気持ちは少しも揺るがないらしい。これこそが希望。聖霊の導きによって、あなたの善意を素直に受け入れることができますように。

聖パウロ修道会の私は、パウロ家族の召命チームとして女子パウロ会、師イエズス修道女会のシスター方と共に、聖霊降臨の主日に二俣川教会で行われた青年の集いに参加しました。この日は私の叙階の翌日で初ミサという特別な日でもあり、生涯忘れられない恵みの時となりました。ミサ後には花束をいただき、同行した姉も分かち合いに加わりました。グループには日本人や韓国出身の方もおられ、国際的でシノドス的な雰囲気の中、お互いの体験や思いを正解・不正解にとらわれず率直に語り合う貴重な交流ができました。次の機会にもまたぜひ参加したいと思います。

「わかちあいたいかい」の魅力のひとつは、普段お話をする機会の少ない共同体メンバーの方々とゆっくりと言葉を交わせることにあると思っています。私は今回が3回目の参加でしたが、今回もやはり嬉しい再会と素敵な出会いがありました。毎年興味深いテーマを用意して下さり勉強になることはもちろん、テーマに沿って分かち合いを進める中でメンバーの皆さんの神様への想いや神様への信頼の言葉が聞けた事が何よりのお恵みと感じました。年代や普段身を置く環境が違って、同じように神様の話が沢山出来ることに改めて「わかちあい」の意義を肌で感じる機会となりました。(特に、今までの自分では思いも寄らなかった意見を伺って「そういった考え方もあるのか!」と気づきを得る瞬間が好きです。) 二俣川教会独自の取り組みとして「わかちあいたいかい」を準備して下さっている皆さんに感謝をしながら、また共同体の皆さんと神様のお話が出来てことを楽しみにしたいと思います。



終了後、前庭で茶話会

新司祭 ヨセフ チャン・ゴー・グエン・ヴー神父様をお迎えして

わかちあいたいかいのために、ベトナム人の新司祭、聖パウロ修道会のヨセフ チャン・ゴー・グエン・ヴー神父様が叙階式のために来日されたお姉様(下段写真右の真ん中)と一緒に二俣川教会へ来てくださいました。なんと前日の6月7日に、四ツ谷の麹町教会で司祭叙階されたヴー神父様は、神学院でナン助祭と同級生でした。そして聖パウロ修道会としては、はじめてのベトナム人司祭です。ヴー神父様のこれからの歩みのために、共に祈りいたしましょう。



～ナン助祭の司祭叙階に向けて共に歩む～

Vol.2

思いがけず、5月半ばから1ヶ月近い日本滞在(=二俣川教会滞在)となったナン助祭。無事にビザを取得し、叙階式準備のためにベトナムへ。ベトナムでは、叙階式の準備が進められ、7月末からの1週間の黙想会で最終準備となるようです。ベトナムと日本という距離を超えて、祈りとお恵みの深い内面化をもって、霊的な準備を共に進めてまいりましょう。

★ナン助祭司祭叙階式参列ツアー★

8月4日のベトナムでの叙階式に参列するツアーメンバーは19名となりました(内、同じ第3地区の港南教会からも3名参加されます)。8月3日～7日の旅程となりますが、4日(月)午前8時から、ナン助祭とグエップ助祭を含めた16名の助祭の司祭叙階式に参列し、6日(水)にはナン助祭の出身教会での初ミサに参列します。初ミサ後の祝賀会では、私たち日本人参列者から、歌唱やお祝いムービーをもって、お祝いと感謝と応援の気持ちを表す時間をいただく予定です。

★ナン助祭司祭叙階に向けての計画のご案内★

- ①6月29日(日)の聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日、10時ミサの後、洗礼名が「ペトロ」のナン助祭へ、ビデオメッセージ(全員参加)を2階より撮影します。併せて「司祭叙階おめでとう！」メッセージも撮影します。
- ②6月29日(日)それぞれの場所で同じ時間に同じ祈りを祈る「祈りの輪」を、夜9時、ナン助祭のために行います。皆さん、ご参加ください。詳細は「今週のお知らせ」にて。
- ③ナン助祭の司祭叙階を祈り、祝う私たちの心の準備のために、7月13日(日)10時ミサに、日本カトリック神学院の院長、稲川圭三神父様をお招きしてごミサを捧げ、ミサの後に講話が行われます。司祭を生み出す小教区のあり方についてお話しいただく予定です。
- ④青年会の企画で、ナン助祭へのお祝いメッセージを集めます。6月29日から専用の紙を配りますので是非、ご参加ください。集めたメッセージはアルバムにまとめ、8月6日のベトナムでの初ミサ祝賀会で贈呈する予定です。
- ⑤ナン助祭への司祭叙階のお祝いとして『みんなで書いた新約聖書』をプレゼントすることにしました。贈呈は10月前半(予定)の二俣川教会での初ミサです。詳細は、7月からご案内します。



【7 月の予定】

- ・7 月 6 日 ^{きょうかいがっこう} 教会学校
- ・7 月 13 日 ^{じしやかい} 侍者会
- ・7 月 20 日 ^{きょうかいがっこう} 教会学校
- ・7 月 26 日 『サマースクール』
- ・8 月は教会学校はお休みです。みなさん、ごミサでお会いいたしましょう。



【お知らせ】

7/26(土)のサマースクールのテーマは「イエスさまがいちばん」です!!
 10:00~15:00 を予定しています。水遊びや工作、お昼ごはんをみんなでいただいて
 ごミサにあずかり解散の予定です。ご家族でのご参加お待ちしております!!詳細はチラシにて
 お知らせします。

【6/8 わかちあいたいかい】

^{きょうかいがっこう} 教会学校リーダーは、毎年『わかちあいたいかい』の幼児、小学生の託児を担当しています。
^{こそだてちゅう} 子育て中は、ゆっくりとディスカッションする機会など中々持てない中、年に 1 回ではありますが
^{しょうきょうく} 小教区のみなさんとゆっくりお話しできる機会です。来年はぜひ、お子様連れで参加しては
 いかがでしょうか？



【6/22 初聖体】

^{がつ} 1 月からお勉強してきた、8 名の子ども達が初聖体のお恵みをいただきました。毎日のお祈りで
^{かみさま} かみさま、イエスさまと仲良くなれるように、お友だち、家族にやさしくできるように、教会の
^{みなさま} みなさまにもたくさんのお祈りをさせていただき本当にありがとうございました。今年はパーティも
^{開催} 開催していただき子ども達もとても喜んでいました。これからもどうぞ、見守ってください。



今年の夏は昨年以上の暑さが予想されるというので、5月半ばにリビングのエアコンを大奮発で新しくしました。取り付けのための時間は3時間ほどの工事でした。私は工事に関しては見守りだけで特にやることも無いので、お台所でいちごジャムを煮ていました。冷凍いちごでつくるジャムは、水分を飛ばすのに時間がかかるのです。リビングはいちごの甘いにおい、そして工事の音。

時間通りに工事が終わり、職人さんが「いちごジャムですか？」と話しかけてきました。意外な声かけでした。職人さんにはお嬢さんが3人いて、家で、彼がジャムを煮るのだそうです。いちごジャムはこのシーズンの定番だとか。すでにラッピングを終えたジャムを見せると、ラベルを丁寧に読み、カトリック二俣川教会のボリビア支援グループについて質問があったり。いろいろ話していくうちに、キリスト教信者ではない彼が時々教会に行くと話し出しました。多分横浜に住んでいる彼が、なんと練馬のプロテスタントの教会まで行くと言うのです。



「何故？」 「そこの牧師さん、ジーザスへの愛がハンパないんすよ！」
この答え方に、まず大笑い。彼にジーザスの愛を伝えた牧師さんってどんな人なんだろう、ユーチューブで知って、会いに行こうとまで思わせたパワーは、なんだろう？「神さまへの愛がハンパない」と気づき、その話を聞くことに心地良さを感じ、ユーチューブなどのメディアではなく直接会ってみたいと心を動かされたところに聖霊の働きを感じずにはいられませんでした。

その日は何だか天使が舞い降りてきたような嬉しい一日でした。折しも折り 5月28日のごミサ後のビデオ鑑賞で、小野泰世修道女様が「すべての出会いは神様のご計画」、そして「尊い出会いの中には奇跡のような恵みがある」と語られていました。教会、病院、スーパー、少し仕事の外出しかせず、出会いのチャンスが少ない私には、大きな恵みのプレゼントでした。

♥ マリア会例会は「カレーの日」 ♥

第2回の例会は7月20日のミサ後です。和やかにゆっくりお話し合いをしたいので、カレーライスを準備いたします。カレーライスは有料です。その時の時価で概ね300円くらいです。ミサ後に、ご友人とお食事をご計画の皆様にもご利用頂きたいと思います。お顔を合わせてスパイシーな情報交換ができますように！是非、ご参加ください！

マリア会 K. M.

【編集後記】

今号も沢山の写真を掲載しました。どの写真からも、出会い、お迎えし、受け入れ、共にいる出会いの嬉しさが伝わってきました。『二十六聖人』ではいつも、皆さまがイエス様と出会った喜びをわかちあいたいと思います。

(K. A. 記)